

同和問題について 正しい認識を持ちましょう

同和問題とは、部落差別に関わる人権問題のことです。これは出身地などを理由とした差別であり、日本国憲法で保障されている基本的人権に関わる重大な人権問題です。同和問題については、次のような誤った認識を持たれることがよくあります。

『同和問題は教えるからかえって差別が広がる、そっとしておけば自然になくなる』

しかし、本当にそっとしておけば同和問題は自然と解決していくのでしょうか。

現実には、今なお「同和地区出身だから…」と言われて、結婚を妨げられたり、就職で不公平に扱われたりするなどの事案が発生しています。結婚や就職の際の差別は完全に解消されていないのです。このような差別が残っているからこそ、教育や啓発をとおして同和問題について正しく学んでいく必要があります。

『同和問題は、自分には関係ない』

このような無関心は差別の存在を許してしまうことになるのではないのでしょうか。「自分には関係ない」、「誰かがなくしてくれる」という考えでは同和問題は解決しません。

同和問題は「差別をされる側」の問題ではなく「差別をする側」の問題です。

同和問題の解決のために私たち一人一人が、この問題について正しい認識を持つとともに、自分自身で考え、判断するという主体性のある生活態度や、差別を許さないという価値観を持って行動していくことが大切です。

このことは他のあらゆる人権問題を解決していくという取り組みにつながっていきます。

益城町教育委員会

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策

であるが、木山町市ノ後には南北朝時代の遺跡「木山松丸城」があり、その掻き上げ土手を巡る濠を「源五郎堀弥五郎堀」といい当時は満々たる水を讀んでいたそうですが、木山で戦闘が始まると二人は跳弾を避け、堀に必死に飛び込み濠の浅瀬に目だけ出していたといいます。137年後の現在、竹山に崩れかけた土手が残るのみです。

⑤赤井の避難壕
(五楽の山田弘氏談)

4月20日に木山攻防の大会戦があり、翌21日に薩軍は木山から矢部に撤退し政府軍が入る。その直前、薩軍は御船より木山に侵攻する政府軍を防ぐため船野山の中腹に砲台を築いたが、赤井・木崎の男たちは薩軍の白刃に脅かされて死に物狂いで構築に働いたが、女性や子どもは僅かな家財を持ち山麓の竹林に横穴を掘り銃砲声の中に身を震わせていたという。砲台構築が終わり解放され山を下りた男たちは、間もなく始まった戦闘の砲声に驚き戦々恐々として身を潜めたが、戦闘が終わると今度は、政府軍の戦死者の死体収容に使役されたという。

町内・御船署管内の事故・事件の発生状況

事故・犯罪区分	発生状況(件)			
	町内		御船署管内	
	12月中	累計	12月中	累計
人身事故	11	119	23	276
物損事故	92	832	237	2121
空き巣	0	11	1	18
自販機狙い	0	0	1	2
万引き	0	3	7	45
オートバイ盗	0	2	1	7
自転車盗	0	4	3	32
車上狙い	2	13	5	45

件数は平成26年12月末現在

問い合わせ先

役場総務課防災係 ☎ 286-3111

御船警察署・御船地区防犯協会連合会

☎ 282-1110 / ☎ 261 ~ 264

悪質業者による被害は年々増加傾向にあり、手口も複雑かつ巧妙化しています。

町では平成26年度から上益城5町広域連携による消費生活相談窓口を開設し、高度な相談にも対応できるよう専門の相談員を配置しています。

今後みなさんが安全・安心な暮らしができるまちづくりを目指し、消費者問題に関する啓発の推進と相談窓口の充実を図っていきます。

住民生活課住民係

問い合わせ先

役場住民生活課住民係 ☎ 286-3112

(上益城広域消費生活相談室)